

HEADLINE



社会福祉法人 風の馬
ペガサス保育園
所在地 堺市西区鳳北町10丁31番
保育時間 7時30分～19時30分
対象年齢 0歳(生後57日以降)～就学前

ペガサス保育園 保育目標

自分らしく意欲的で
主体的に行動する子ども

- 心身ともに健康な子ども
- みんなと一緒に元気に遊ぶ子ども
- さまざまな物に興味や関心を持つ子ども
- 自分の気持ちを言葉で言え、相手の話が聞ける子ども
- 豊かに感じ表現できる子ども

ペガサスグループでは、基幹病院である馬場記念病院を中心に、地域の方々に対する救急医療から生活までのトータルサポートをめざし、医療・介護・福祉に関連する、さまざまな活動を行っています。そこにおいてこの度、地域福祉への貢献をより一層高めることを目的に、社会福祉法人風の馬を設立しました。そしてその第一歩として、この春、堺市の認可を受けて「社会福祉法人風の馬 ペガサス保育園」を開設。0歳(生後57日以降)から5歳児(小学校入学まで)を対象に、さらさらに輝く笑顔が未来に続く、子どもたちの育成をめざしていきます。

ペガサスグループの保育理念は、子ども一人ひとりの「今」を、そして「心」を大切に、保護者や地域社会とともに、すべての子どもたちが人間らしく生きるための、基礎となる力を育てる」というものです。日々の遊びや給食、おやつなど、いずれにもきめ細やかな心配りを行うことは言うまでもなく、毎月楽しい行事を催すなど、子どもたちの健やかな成長に力を注いでいきます。

なお今後は、ペガサスグループの全面的な支援を背景に、特別保育事業である障害児保育、また、病児保育や365日保育も実施していきたいと考えています。



ペガサス優秀賞バッジ

ペガサスでは、職員に、ペガサス職員としての高い意識、各専門職としての高度な技術・知識、この二つを養うことで、人材の質を高め、ひいては患者さまの満足度を高めて行くという考えから、職員教育に力を入れています。

その一環として、他の職員の模範となる職員の表彰制度があります。これは「ペガサス賞」と称しているもので、職員の意識、技術・知識のさらなるステップアップの糧となるよう表彰するものです。「ペガサス賞」には、接遇表彰、優秀表彰、そして永年勤続表彰の三分野があり、表彰の際には、法人キャラクターをデザインし、各賞ごとに色を変えた記念バッジを贈っています。

平成22年度の優秀賞は、北館2階A病棟の看護師4名、臨床心理部の臨床心理士1名の計5名が対象となりました。優秀賞を受賞した看護師(吉田礼子/師長、藤原牧子、藤木順子、今福美裕貴)は、集中治療室に勤務する看護師の離職率の高さに疑問を感じ、平成22年度日本看護学会看護管理学会において、「集中治療室看護と一般病棟看護師のストレスに関する意識調査」を発表。他の論文発表のなかでも優秀と評価され、平成22年10月26・27日に新潟市で全国発表しました。臨床心理士の梨谷竜也/主任代理は、中国四川省で開催された「日中災害事例研究会」の立ち上げに関わり、PTSD(心的外傷後ストレス障害)に対する心理療法の事例発表及び座長を務め、中国の心理臨床に多大な寄与をもたらしたことを評価。優秀賞を受賞した5名が、ペガサス職員としての誇りを持ち、後に続く職員の見本となるよう、今後の更なる活躍を期待します。

四月二日、堺市認可の「ペガサス保育園」を開設します。

Report *1

救急医療から生活までをサポートするペガサスに、新しい仲間が誕生します。

ペガサスグループが全面的に支援していきます。

Report *2

患者さまの満足度を高めるペガサスの職員教育へ。ペガサス賞表彰について。

「ペガサス賞」の表彰が行われ今年度は5名が受賞。

日本看護学会の研究論文、中国の心理臨床への寄与を評価しました。

社会医療法人ペガサス 外来診療のご案内

平成23年2月1日現在

	診療時間	診療科		月	火	水	木	金	土
馬場記念病院	午前診 9:00～ 受付 8:30～12:00	内科 循環器科	1診	山下 啓 (循環器)	坂本常守 (循環器)	難波雅司 (循環器)	平田明子 (内科)	坂本常守 (循環器)	田口晴之／島田健永 第1・3・5週／第2・4週 (ともに循環器)
			2診	平山道彦 (循環器)	田中秀典 (呼吸器)	周藤弥生 (糖尿病)	栩野吉弘 (呼吸器)	若山公作／栩野吉弘 第2・4・5週／第1・3週 (ともに呼吸器)	
		外科 消化器科	外・消1診	金原 功	坂下克也	渋谷雅常	金原 功	寺岡 均	大平 豪 第1・3週
			外・消2診	原 順一	寺岡 均	真下勝行	坂下克也	平田直人	大平雅一 第2・4・5週
			外・消3診		河内屋友宏		原 順一		北田拓也 (肝臓病)
		脳神経 外科	脳外科1診	宇野淳二	伊飼美明	魏 秀復	宇野淳二	魏 秀復	交替制
			脳外科2診	徳永 聡	馬場武彦	徳永 聡	長岡慎太郎	伊飼美明	
			脳外科3診	藤本基秋	甲斐康稔	藤本基秋	松尾吉紘	甲斐康稔	
			脳外科4診	長岡慎太郎					
		(脳)神経 内科	(脳)神経内科1診	高橋光雄	北口正孝	峯田春之	北口正孝	平賀定一	濱田征宏
			(脳)神経内科2診	中谷芳美	千本裕子	西本和弘	楠 進／平賀定一 第1・3週／第2・4・5週	長谷川隆典	
			(脳)神経内科3診					金田明子	
		整形外科	整形外科1診	本田良宣	山北真也	三木慎也	本田良宣	山北真也	交替制
			整形外科2診	篠塚宗徹	岡垣健太郎	篠塚宗徹	山田敏行	岡垣健太郎	岡田充弘 第1・3週
			整形外科3診	釜野雅行				三木慎也	庄司恭之 第1または、第3週(背椎)
	形成外科		山本喜英	山本喜英			山本喜英	山本喜英／矢野 基 交替制	
	午後診 14:00～ 受付 13:00～15:00 は 予約が必要です。 必ず予約のうえ ご来院ください。	内科				坂本常守 (循環器)			
						玉垣芳則 (在宅酸素)			
		(脳)神経内科		北口正孝		北口正孝			
			池尻義隆／松本亜希 第2週／第1・3・4・5週		南部泰孝 (睡眠時無呼吸外来)				
		整形外科	岡垣健太郎(関節の外来) 装具外来(14:00～14:30)	釜野雅行 (手の外来)		装具外来 (14:00～14:30)			
泌尿器科		野澤昌弘		清水信貴(予約検査) 梅川 徹(診察のみ)	辻 秀憲				
馬場病院	午前診 9:00～12:00 受付8:30～12:00	内科外来	久保俊彰	交替制	新田敦範 (外科)		千本裕子 (脳神経内科)	交替制	
		外科外来	担当医(脳神経外科) 新田敦範(外科)	本田良宣 (整形外科)	担当医 (脳神経外科)	山本喜英	北口正孝 (脳神経内科)		
	午後診 15:00～18:00 受付14:30～18:00		担当医 (内科)	交替制	新田敦範	新田敦範	久保俊彰		
ペガサスクリニック	午前診 9:00～12:00 受付8:30～12:00	1診	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德	永田安德 第1・3・5週 矢野 基 第2・4週	
		2診	宇治義正	戸田千綾	宇治義正	宇治義正	宇治義正	岡本隆司 第1・3週 田中秀典 第2・4・5週	
		3診		担当医					
	夜診 18:00～19:00 受付17:30～19:00	1診	永田安德	矢野 基	宇治義正	宇治義正	担当医		
		2診	担当医	担当医	担当医	担当医	永田安德		
ペガサスチャルロッサ	午前診 9:00～12:00 受付8:30～12:00		中林孝之	交替制	中林孝之	中林孝之	中林孝之	中林孝之	
	午後診		往診	往診	往診	往診	往診		

ペガサスロイヤルリゾート石津

からのお知らせ

「好きな言葉を作品に」。ご入居者に好評の書道教室。

自分の好きな言葉を毛筆で書き、カレンダーや色紙などの作品に仕上げるができる——。これが、高齢者専用賃貸住宅ペガサスロイヤルリゾート石津で、開催されている書道教室の人気の理由です。参加者の方々は、ボランティアの書道の先生に手ほどきを受けながら、約2時間の稽古を進めていきます。最初は、緊張した面持ちで筆を握り、固くなっていた方も、次第に個性豊かな文字が書けるようになりました。作品が仕上がると、お互いに見せ合う場面も。できあがった作品はそれぞれ部屋に持ち帰り、これからの生活に彩りを添えることになると思います。



法人本部からお伝えしたいことがあります。

ペガサス医療体験デイ 就活バージョン 今年度最後の開催です。

今春卒業予定の看護学生の皆さんはもちろん、来春卒業予定の方もどうぞお気軽にご参加ください。

開催日 2月19日(土)
受付時間 12:30～



※詳しくはペガサスのホームページをご覧ください。http://www.pegasus.or.jp/

ご存じですか！ ペガサス脳卒中センター ペガサス消化器センター

馬場記念病院では、脳神経外科の医師とコメディカルとのブレインチームによる「脳卒中センター」、また、消化器科と外科とのチームによる「消化器センター」を設置し、高度な専門治療の提供を行っています。

2月のペガサスセミナーは、

転ばぬ先の骨の検査

講師：浜尾雅信

馬場記念病院 健診室 診療放射線技師

日時：2月24日(木) 午後2時～3時

場所：馬場記念病院 1階 ロビー

馬場記念病院からのお知らせ

医師らの思いを込めた手作りカードで
外科病棟の入院患者さまが
笑顔でいっぱい

昨年12月24日のクリスマスイブのこと。馬場記念病院の外科病棟に、サンタクロースとトナカイたちが訪れました！

実はこれ、外科病棟の医師や研修医、看護師などのスタッフなのです。ことの始まりは、昨年、馬場記念病院に入職した外科の金原 功医師が「ここではクリスマスは何かイベント

を行っていますか？」と寺岡部長に問いかけたところから。そこで外科病棟では、サンタクロースが病棟を回診して入院中の患者さまにクリスマスカードをお渡しすることにしました。いよいよクリスマスイブの当日。サンタクロースやトナカイに扮装したスタッフが、外科病棟に入院していらっしゃる約30名の患者さまを回って記念撮影。はじめは驚いたり遠慮されたりしながらも、最後はカメラに笑顔を向けてくださいました。こうして撮影した写真とイラストを添えた手作りカードをプリントし、クリスマスカードが完成。その夜、患者さまにプレゼントしました。

残念ながら、寺岡 均外科部長は、緊急手術のために参加できませんでしたが、医師や看護師、師長など、多いときには8名になりました。病室を訪れてカードをお渡しし、笑顔の患者さまと一緒に記念撮影をパチリ。何も知らずにお見舞いに訪れた方々も、驚くとともに大変喜んでくださり、病室は和やかなムードに包まれました。



S p e c i a l

馬場記念病院 最前線

シリーズ
14

消化器センター

消化器科と外科が一体となり、
消化器領域の疾患に対して
集約的な専門医療を提供します。

高度なチーム医療を
日々、実践する
消化器センター

消化器とは、食道、胃、十二指腸、小腸、大腸、直腸からなる消化管と、肝臓、胆嚢、膵臓からなる腹部の臓器を指します。この疾患領域においては、これまでも消化器科と外科が深く連携し、総勢9名の医師をはじめ、看護師、コメディカルスタッフが医療チームを組んで、診断から治療、その後のケアまで継続性のある専門治療に取り組んできました。この円滑なチーム医療体制

消化器科と外科、
それぞれの強みを
最大限に発揮する

当院の消化器センターの特徴は、消化器科と外科がそれぞれの強みを存分に活かしながら、それらの技術を集約し、最善の医療を提供していくところにあります。消化器科の得意とするのは、内視鏡を用いた体に負担の少ない診断・治療法です。内視鏡を用いることにより、腹部を切ることなく、小さな病変を見つけ、切除することができます。出血に対する止血術、異物除去などのほか、早期の胃癌、大腸癌に対しても良好な治療実績を重ねています。一方、外科では、患者さまの

複数の専門家の目で
治療方針を検討

消化器領域では多様な治療法がありますから、「どの治療法を選択するか」という方針決定が重要な鍵を握ります。たとえば、早期の胃癌に対しては、腹部を切ることなく病巣を摘出する内視鏡治療が最良の選択になりますが、病変によっては内視鏡治療がむずかしい場合があります。その場合、私たちは患者さまの安全を第一に考え、消化器科と外科の医師が一緒になって慎重に検討を重ねます。そして、患者さまとも十分に話し合った



QOL（生活の質）を考慮し、開腹手術に比べて傷口が小さく、回復が早い腹腔鏡下手術を積極的に取り入れています。腹腔鏡下手術とは、腹部に小さな穴を開け、棒状カメラと特殊器具を挿入して行う手術で、胆石や急性虫垂炎、胃癌、大腸癌、ヘルニアの手術などに採用しています。体への負担を軽減する内視鏡治療や腹腔鏡下手術、そして安全性を重視した開腹手術。消化器センターでは、これらの医療技術に磨きをかけながら、より高度な専門医療を追求しています。

うえで、安全で最適な治療法を決定しています。消化器科、外科の医師が単独で決めるのではなく、複数の専門医が議論して治療法を選択するところに、消化器センターの大きなメリットがあると考えています。

この地域の
消化器センターとして
さらなる貢献を

また、救急病院の消化器センターの特徴として、一刻を争う急性腹症や吐血・下血、腹部外傷などの急性疾患患者さまに対しては、24時間対応で迅速な診断と適切な治療を行っています。

さらに、近年は悪性腫瘍に対する化学療法（薬物療法）にも力を注いでいます。センター内に外来化学療法室を併設し、放射線科、臨床検査室の病理部門とも緊密に連携し、手術や薬物療法などを組み合わせた集学的治療に取り組んでいます。消化器センターではこうした治療体制をさらに高度化・先鋭化すると同時に、診療所の先生方との連携強化に努め、病気の早期発見と治療に全力で取り組み、地域の患者さまをしっかり支えていきたいと考えています。

内視鏡検査・治療実績(平成22年)

上部消化管内視鏡：2241例(止血術、異物除去、ポリペクトミー、EMR、狭窄拡張術含む)
下部消化管内視鏡：925例(止血術、ポリペクトミー、EMR含む)
逆行性胆管膵管造影：186例(うち乳頭切開術80例、ドレナージ及びステント留置術117例)
静脈瘤硬化術・結紮術：26例 胃ろう造設：171例

粘膜下層切開剥離術(ESD)治療実績(平成19-22年)

総病変数：101(癌：71、腺腫：30)
合併症 穿孔：3例(保存的治療2例、緊急手術1例)
合併症 出血：2例(内視鏡の止血2例、緊急手術なし)

当院における鏡視下手術適応疾患

- 胃癌、大腸癌、肝癌などの悪性疾患
- ヘルニア、胆石、副腎腫瘍など消化器良性疾患
- 急性虫垂炎、腸閉塞、消化管狭窄、急性胆嚢炎など急性疾患
- 気胸など肺疾患

馬場記念病院
消化器センター長 消化器科部長

原 順一